

鹿児島県出水平野におけるツル類の基礎調査 第7報

ツル類の生息状況に関するアンケート調査 (昭和61年度)

千羽 晋示*・安部 直哉**

Studies of the Cranes in Izumi, Kagoshima, Japan. 7.

The Inquiry about the Distribution of Cranes
in western and central Japan

Shinji Chiba* and Naoya Abe**

序

初年度 (昭和60年度) の調査では、九州・四国・中国地方におけるツル類の渡来・生息状況に関するアンケート調査を行なった (千羽・安部, 1987)。第2年度には、ツル類の従来の記録地域を考慮して、調査対象地域を九州・四国・中国地方・近畿地方・中部地方・東北地方の一部まで広げて、初年度とほぼ同様のアンケート調査を行なった。さらに、このアンケート調査の回答が一応集まった時点で、九州・四国・中国地方の数十名の方々に再度の問い合わせを行なった。

本報告はこれらの調査に対する回答をまとめたものである。前回に引き続き回答をくださった多くの方々にお礼申し上げる。

調査方法

アンケート調査用紙の内容

(1)本調査のアンケート調査の内容は次頁に示す通りである。(2)前述のように、再度問い合わせを行った九州・四国・中国地方の29名の方々には、それぞれの居住県内あるいは居住地域一帯における昭和61年度 (以下、1986—1987年期と記す) のツル類の全体的な情報や(1)の回答に関する不明点などを問い合わせた。

アンケート調査用紙の発送先と発送数

前述の調査地域に在住の日本鳥類保護連盟会員、長崎県生物学会々員、そのほか鳥類観察者や研究者に対して、返信用封筒と切手を付けて調査用紙を送付し、総計1971名の方々に調査を依頼した。

* 国立科学博物館附属自然教育園, Institute for Nature Study, National Science Museum.

** 同上 (非常勤)。

国際保護鳥ナベヅル・マナヅルの保護・管理手法に関する研究調査票

国立科学博物館附属自然教育園

ツル類についての調査票（昭和61年度）

記入者のお名前

記入者のご住所

1. 全国を対象にした記録について

- (1) あなたのお住いの近くで、ツルを見たことがありますか。

(イ) ある (ロ) ない

- (2) 見たことのある方も、ない方も、どのあたりの場所か知りたいので、中心となる地名をなるべく詳しく教えてください。

県 市・郡 町・村 丁目 番地（字名 ）

- (3) 見たことのある方は、つぎのことについて教えてください。

ツルの種類（ナベヅル・マナヅル・その他・わからない）

ツルを見た時期 昭和・大正 年頃（くわしくわかれば 年 月 日 時頃）

見たツルの数 羽くらい : (イ) 地上におりていた (ロ) とんでいた

- (4) あなたがお住みの場所以外で見たことのある人は、(3)と同じようにお教えてください。

- (5) 見たことのある方は、ツルがどんな場所にいたか。例えば水田・沼地・畑・川など、その場所の状況についてお教えてください。

2. 出水平野に渡来するツル群の記録について（昭和61年9月以降の記録。とくに、九州地方にお住みの方々にお願いをします。）

- (1) あなたのお住みの近くで、今年の9月以降、ツルが飛来してきたのを見たことがありますか。

(イ) ある (ロ) ない

- (2) 見たことのある方は、つぎのことについて教えてください。

ツルの種類（ナベヅル・マナヅル・その他のツル・わからない）

ツルを見た日 ① 昭和 年 月 日 時頃

②

ツルを見た場所 ① 県 市・郡 町・村 丁目 番地（字名 ）

②

見たツルの数 ① 羽 ② 羽

ツルは、どんな場所にいましたか。

(イ) 地上におりていた（水田・沼・畑・山の沢 ）

(ロ) 飛んでいた……飛んで行った方向… ××町から○○町方向へ、また南へと行った方向を
()

調 査 結 果

調査用紙の回収結果

表1に示したように、合計816名の回答があり、回収率は42%であった。

表1 県別回答者数

秋 田……………10	三 重……………21	徳 島……………12
山 形…………… 5	滋 賀……………11	香 川…………… 7
福 島……………12	京 都……………31	愛 媛…………… 5
新 潟……………35	大 阪……………64	高 知……………15
富 山…………… 9	兵 庫……………61	福 岡……………50
石 川……………16	奈 良……………13	佐 賀…………… 7
福 井…………… 7	和 歌 山……………11	長 崎……………88
山 梨……………13	鳥 取…………… 4	熊 本……………20
長 野……………39	鳥 根……………10	大 分……………13
岐 阜……………29	岡 山…………… 4	宮 崎……………11
静 岡……………38	広 島……………30	鹿 児 島…………… 9
愛 知……………93	山 口…………… 7	沖 縄…………… 6

注 1. アンケート調査依頼数 1971名、回答者数 816名。

注 2. 再調査依頼者数 29名、回答者数 20名。

回答のまとめ方

(1)本報では、1986—1987年期すなわち1986年秋期から1987年春期までのツル類の記録をまとめた。それ以前の「過去の記録」は、さらに情報を集めて県別に別報として発表する予定である。

(2)なお、前年度のアンケート調査をまとめた報告（千羽・安部，1987）では1985年秋期から1986年春期までの記録を示したが、これに収録できなかった同年期の記録を今回のアンケート調査ならびにその他の情報をもとに本報告で追加した。

(3)前報と同様に、一部の記録には、本報の編著者の「注記」を付けた。

(4)ツル類の越冬地として知られている鹿児島県出水地方と山口県熊毛地方における記録は除き、前報と同様の理由で、各県ごとに種別に記録をまとめ、記録年月日、羽数、記録地名などを示した。

(5)表1には載っているが、記録を示す次項では出ていない県は、本調査ならびに他の情報による限りでは、1986—1987年期にはツル類の渡来記録がなかった県である。

1985年秋期から1986年春期の記録（前報の補遺）

石川県

マナヅル

(1)1985年10月27日—1986年2月1日。成鳥1羽。金沢市才田町森下川河口の干潟と付近の水田。

(2)1985年10月27日。成鳥1羽。河北郡河北潟。

(3)1985年11月23日，16時頃。1羽（幼成不詳）。河北郡河北潟。11月末頃まで滞留。

注記：(2)と(3)のマナヅルは同一個体らしい。

三重県

ナベヅル

(1)1986年2月7日。3羽。松坂市柿ノ木町, 水田跡。

京都府

ナベヅル

(1)1986年3月6日より数日間滞留。1羽。熊野郡久美浜湾付近。

長崎県

種名不明

(1)1986年3月9日, 11時頃。64羽。長崎市鳴竜町上空, 東から飛来して西方へ。

(2)1986年3月12日, 14時0分頃。60羽。西彼杵郡高島町。上空約200mを徘徊後に北方へ。

(3)1986年3月15日(時刻不詳)。約40羽。西彼杵郡高島町上空。

鹿児島県

ナベヅル

(1)1985年10月29日。5羽(成鳥4羽と幼鳥1羽)。加世田市益山。

(2)1985年10月29日。4羽(成鳥2羽と幼鳥2羽の家族らしい)。加世田市上ノ浜。

宮崎県

ナベヅル

(1)前報(千羽・安部, 1987, 27頁)の宮崎県の記録(3)の地名「児湯郡新宿」は「児湯郡新富町」に訂正する。さらに, 幼鳥1羽が同所において1986年3月21日にも観察されている(以上は, 中島義人氏からの書信により訂正, 追加した)。

1986年秋期から1987年春期の記録

滋賀県

マナヅル

(1)1987年6月16, 17, 18日。守山市郊外の水田に1羽飛来(幼成不詳), 6月16日, 10時頃発見される。

6月17日, 守山市赤野井町の水田, 麦畑跡に生息し, まかれた大豆をついばむこともある。

京都府

マナヅル

(1)1987年3月6日。1羽(幼成不詳)。福知山市長田段の砂子池。

注記: 京都府における上記の個体と滋賀県におけるものが, 同一個体か否かは明らかでない。坂根干氏によれば, 兵庫県内においても, 過去にマナヅルの記録は幾例があるが, それらは, 近畿地方で飼育されているマナヅルの逃げ出した個体である可能性が高いという。

愛媛県

マナヅル

(1)1987年1月1日。1羽(幼成不詳)。大洲市, 国鉄(当時)「八多喜」駅の前の水田跡に飛来し, 1月14日に飛去。

ナベヅル

(1)1987年1月10日。1羽(幼成不詳)。伊予郡松前町, 重信川河口の干潟。

高知県

ナベヅル

(1)1986年11月9日。4羽(成鳥2羽と幼鳥2羽)。中村市竹島の水田跡。

注記：以下のナベヅルの記録は、沢田佳長氏からの私信により、沢田佳長(1987)にまとめられている記録をそのまま掲載させていただいた。なお、各記録の幼成別、記録の一部が同一個体か否かなどに関する記述はない。

(2)1986年11月2日。3羽。中村市具同上空。

(3)1986年11月3日。2羽。中村市四十川上空。

(4)1986年11月6日。4羽。中村市森沢。

(5)1986年11月8日。8羽。幡多郡大月町田代。

(6)1986年11月12日。4羽。土佐市八幡。

(7)1986年11月14日。2羽。吾川郡春野町諸木。

(8)1986年11月17日。3羽。宿毛市沖須賀。

(9)1986年11月23日。2羽。吾川郡春野町諸木。

(10)1986年12月3日。1羽。宿毛市和田。

(11)1986年12月3日。2羽。中村市森沢。

福岡県

ナベヅル

(1)1986年11月2日。1羽(成鳥)。福岡市西区今津。

(2)1986年11月2日, 17時頃。幼鳥1羽。福岡市西区今津, 瑞梅寺川河口の干潟。

(3)1986年11月3日, 17時頃。成鳥2羽と幼鳥1羽。同上所。

種名不明

(1)1986年11月1日, 14時頃。7羽。福岡市早良区室見(室見川河口)の上空を西方へ。

(2)1986年11月21日, 6時55分。8羽。博多区東公園の上空200mを西方へ。

(3)1986年11月21日, 7時頃。7羽か8羽。国鉄(当時), 鹿児島本線「吉塚」駅の上空を博多方面(西方)へ。

長崎県 長崎県の記録は、前報と同様に、九州本島域、壱岐、対馬に分けて示した。

1. 九州本島域

マナヅル

(1)1986年10月25日, 13時30分頃。9羽(幼成不詳)。諫早市諫早干拓地。

(2)1986年11月14日, 7時10分頃。2羽(幼成不詳)。北松浦郡鹿町町口の里の水田跡。1時間半後に佐世保方向に飛び去る。

(3)1986年11月14日, 8時10分。5羽(幼成不詳)。同上所の上空。

(4)1986年12月28日。成鳥1羽と幼鳥1羽。諫早市川内町新地。

ナベヅル

(1)1986年11月3日, 7時頃。1羽(幼成不詳)。長崎市鶴見台町1丁目の上空を北西から南東へ。

(2)1986年12月31日, 9時頃。7羽(幼成不詳)。諫早市諫早干拓地および畑地。

(3)1987年3月8日, 12時頃。約170羽と約70羽の2群。西彼杵郡外海町黒崎の上空。

(4)1987年3月15日。約170羽。西彼杵郡外海町黒崎の上空。

注記：以下の記録は、北松浦郡生月町里免に在住の荒田幸生氏による生月島上空を通過して繁殖地に向うツル類の記録である。種別には分けて、月日順に掲載した。

- (5)1987年3月8日, 13時49分より, ナベヅル約51羽。14時24—35分, ナベヅル約120羽。
- (6)1987年3月15日, 13時50分より, ナベヅル約100羽。15時10—15分, ナベヅル約240羽。15時20分, ナベヅル約270羽。上記の240羽と270羽は生月島沖で一緒になり, 対馬方向へ。15時27分, ナベヅル45羽。15時42分, ナベヅル3羽。以上, 3月15日のナベヅル合計は約660羽。
- (7)1987年3月16日, 13時40分。ナベヅル約30—40羽。15時25分, マナヅル15—20羽。13時50分, 数100羽。
- (8)1987年3月19日, 11時21分。42羽, 上部在の上空に現われ, 後から来た群と一緒に, 合計74羽が山頭草原に降りる。このうちナベヅルは72羽, マナヅルは2羽。11時35分には合計116羽, ナベヅル114羽とマナヅル2羽。
- (9)1987年3月20日, 6時15分—7時30分まで。6時15分現在, (8)のツルのうち75羽が山頭草原に残っている。6時35分, 飛び立ち, 北へ向う。
- (10)同日, 7時0—1分。長瀬およびその付近から合計13羽が飛び立つ。
- (11)同日, 7時14分。28羽, 松本田原に降りている。以上の合計, ナベヅル116羽。
- (12)1987年3月26日, 16時35分—17時0分。ナベヅル約130羽通過。

種不明の記録

- (1)1986年11月1日, 8時頃。7羽。大村市池田新町11区の上空を南東へ。
- (2)1986年11月2日, 9時頃。8羽。北高来郡森山町上井牟田, 読売チサンゴルフ場の上空を千々石湾方向(東方)へ。
- (3)1986年11月2日, 17時10分頃, 1羽。同ゴルフ場近くの池に降りている。
- (4)1986年11月3日, 11時58分。約60羽。長崎市福田本町1丁目, 長崎カンツリークラブの上空を北から南に。
- (5)1986年11月16日, 15時30分頃。20—30羽。長崎市網場の上空を南へ。
- (6)1986年11月15日, 16時頃。約50羽。長崎市宿町の上空を北から南へ。
- (7)1986年11月16日, 15時30分頃。46羽。西彼杵郡崎戸町砺ノ浦郷(大島)。佐世保(黒島)方向から飛来して, 一時地上に降りて, 南方へ。
- (8)1987年3月3日, 12時20分頃。約100羽。西彼杵郡琴海町手崎の西方を3群に分かれて北西へ。13時0分頃。約100羽。同所の東方の上空を北西へ。

2. 壱岐における記録 壱岐と対馬における記録の多くは, 上空を通過中のもので, 種名は不明である。

- (1)1986年10月29日, 17時20分頃。マナヅルと思われる約50羽。壱岐郡郷ノ浦町岳ノ辻の上空を芦辺町深江田原の方向へ。夕暮れなので塹を求めていると思われた。
- (2)1986年11月3日, 16時頃。マナヅルと思われる約50羽。壱岐郡郷ノ浦町長峰本村触の上空。
- (3)1986年11月4日。マナヅルと思われる約30羽。芦辺郡芦辺町深江の上空を南へ。
- (4)1986年11月8日, 17時頃。マナヅルと思われる約20羽。芦辺町八幡半島基部の上空。
- (5)1986年11月13日。マナヅル(羽数不詳), 芦辺町深江に降りる。
- (6)1986年11月14日。マナヅル約40羽。芦辺町深江に降りている。
- (7)1986年11月30日。マナヅル幼鳥1羽。芦辺町深江に降りる。
- (8)1987年1月2日。マナヅル成鳥1羽と幼鳥1羽。芦辺町深江田原。
- (9)1987年1月12日。マナヅル2羽。芦辺町深江(幡鉾川中流周辺の水田跡)。

注記: 1987年2月11日付ならびに同年2月21日付「壱岐日報」によると, (8), (9)に記したものと同一個体と思われるマナヅル2羽が芦辺町深江田原で越冬している。そして, 「2月12日頃, 深江田原で, 出水

から北帰行のツルが羽を休めていた。14日早朝この群は飛びたち、この後を追うように越冬したマナヅル2羽も飛びたった」という。

(10)1987年2月15日。マナヅル5羽。芦辺町深江。

(11)1987年2月18日，朝。マナヅル約17羽。同上所。

(12)同日，夕方。マナヅル29羽。同上所。

(13)1987年2月19日。マナヅル29羽。同上所。この日以後，北へ帰ったと思われる。

注記：(10)―(13)によれば，1987年2月15―19日にかけて，マナヅルの5―29羽が芦辺町深江田原の水田跡に滞留している。

3. 対馬における記録

(1)1986年10月31日，15時30分。マナヅル約50羽。上県郡上県町田ノ浜の上空を南へ。

(2)1986年11月1日，14時30分頃。約30羽。上県町湊の上空を南へ。

(3)1987年2月10日，10時30分。25羽。上県町仁田の上空。

(4)1987年2月21日，15時30分。約50羽。下県郡厳原町阿須の上空を北へ。

(5)同日，17時0分。マナヅル29羽。上県町佐護の水田跡に飛来。

2月22日，10時30分に飛去。

(6)1987年3月3日，17時30分頃。厳原町西側の山地上空をツル多数が北方へ。

(7)同日。マナヅル22―26羽。上県郡上対馬町豊に飛来。

3月4日。上記の群と思われるマナヅル21羽が上対馬町比田勝に，4羽が同町浜久須に，1羽（この個体は死亡）が同町富が浦に降りている。

(8)1987年3月3日，ツル21羽。上対馬町上対馬高校のグラウンドに降りる。

(9)同日，上県町佐護の水田跡にマナヅル，ナベヅル合計約137羽が降りる。

3月4日，この群はマナヅル73羽とナベヅル64羽で，同日に北方に飛去。

(10)1987年3月4日，17時10分。ツル多数が厳原町厳原の上空を北へ。

(11)1987年3月12日，20時。約30羽。下県群美津島町加志に降りる。

3月13日，6時30分に飛去。

(12)1987年3月12日，ツル約10羽。上県町佐護（椋梨）に降りる。

3月13日，同上所。

(13)1987年3月15日，19時5分頃。100羽以上（マナヅルが多い）。上県町佐護に飛来。

3月16日，北方に飛去。

(14)1987年3月26日，20時45分。上県町佐護に飛来。翌27日の早朝に北方に飛去。

(15)1987年3月27日，18時40分。ツル多数が厳原町厳原の上空を北へ。

同日，19時0分。厳原町阿須の上空を約130羽が北方へ。

熊本県

マナヅル

(1)1986年12月26日，12時30分頃。1羽（幼成不詳）。球磨郡錦町，浜川，球磨川の上空。

(2)1987年2月7日，14時頃。2羽（幼成不詳）。天草郡河浦町一町田の水田跡。

(3)1987年2月13日。成鳥2羽。天草郡河浦町の水田跡。

(4)1987年3月3日。10時15分に約60羽。10時30―45分に約100羽，マナヅルが多くナベヅルの少ない5群計約120羽。11時0分に約50羽，マナヅルとナベヅルの混群―3群計約50羽，八代海獅子島の上空を北西へ。

ナベヅル

(1)1986年10月末。2羽(幼成不詳)。菊地市七城町と鹿平郡鹿平町の境, 菊地川と迫間川の合流点付近の水田跡。

(2)1986年11月5日。2羽(幼成不詳)。鹿本市鹿本町, 球磨郡錦町・国鉄(当時)「木上」駅付近, 菊地川と間田川の合流点付近。

注記:「熊本日日」新聞に掲載されている1986年11月4日に菊地郡七城町, 菊地川と迫間川の合流地点で撮影された写真では, この2羽は成鳥のようである。

(3)1987年3月3日, マナヅルの記録(4)のなかに記した北帰群。

種不明の記録

(1)1987年3月3日, 9時40分より, 天草郡苓北町富岡の上空。60—70羽(7群)が北へ。

(2)1987年3月3日, 10時0分—11時20分。約350羽。長島の上空を北へ。

(3)1987年3月8日, 12時28—33分。11羽。天草郡苓北町富岡, 白岩崎の上空を北へ。

鹿児島県

マナヅル

(1)1986年11月3日。3羽(幼成不詳)。熊毛郡上屋久町一湊。

ナベヅル

(1)1986年11月3—5日。5羽(幼成不詳)。熊毛郡上屋久町一湊。一湊川中流の川岸と矢筈海岸の岩石原を移動。

種不明の記録

(1)1986年11月9日。1羽。薩摩郡東郷町, 川内川支流の樋渡川と藤川天神に通じる町道の間の水田跡。

アネハヅルの記録

1986—1987年期には出水地方で2羽のアネハヅルが越冬し, 今年度のアンケート調査でもアネハヅルの記録が数例報告されている。従来, 日本各地におけるアネハヅルの記録は5—7月のものが多く, 越冬鳥との関係や飼育鳥の逃げ出した個体か否かの検討も必要なので, アネハヅルの記録は次年度にまとめて報告する予定である。

結 び

本報の1986—1987年期の調査結果で注目される点は, 前年期には, (1)大分県, 宮崎県, 佐賀県で, 渡来期ならびに渡去期に数例ながらツル類の記録があったが, 今年期にはこれら3県で記録がなかったこと, (2)前年期と同様に, 長崎県生月島, 壱岐, 対馬における, 特に渡去期の貴重な記録が得られたことである。

文 献

千羽晋示・安部直哉, 1987. 鹿児島県出水平野におけるツル類の基礎調査 第2報. ツル類の生息状況に関するアンケート調査(昭和60年度). 自然教育園報告, 18: 23—31.

澤田佳長, 1987. 高知県におけるツル類渡来の基礎的研究①——概要と渡来記録. 高知県立宿毛高校研究紀要5: 1—28.